

—関連施設だより—

諦めない急性期医療，断らない救急医療，逃げないコロナ診療

益子 邦洋

医療法人社団永生会南多摩病院

Never Give up Acute Care, Never Refuse Emergency Care, Never Escape from COVID-19 Management

Kunihiro Mashiko

Minamitama Hospital, Medical Corporation Eiseikai Association

医療法人社団永生会 南多摩病院（以下，当院）は東京都心から西へ約 40 キロメートル，新宿から電車で約 40 分の距離に位置する中核市八王子（人口 58 万人）の二次救急病院です。病床数は 170（HCU 5 床，急性期病床 143 床，地域包括ケア病床 22 床）であり，救急医療センター，循環器センター，骨折・上肢の外科センター，人工透析センター，メディカルケアセンター（人間ドック）の 5 つの機能を柱に据え，急性期病院の立場から医療法人社団永生会が目指す“街づくり，人づくり，思い出づくり”に取り組んでいます（図 1）。

また永生会は，当院のほか永生病院（548 床），みなみ野病院（205 床），4 クリニック，3 老健施設，2 グループホーム，5 訪問看護ステーション等を運営する医療法人であり，永生会における当院の役割は法人組織全体の入口機能と後方支援機能を担うことです。

八王子市には日本医科大学出身の医師が多く，現会員数 657 名の八王子市医師会の会長として，故若林玄修先生（S14），故鳥羽 洋先生（S45），赤上 晃先生（S46），孫田誠三先生（S53）が，また現役員では，鳥羽正浩会長（H7），新谷英滋理事（S60），孫田誠三監事（S53）が八王子市医師会を牽引しておられます。

また，小林義典先生（S56 東海大学八王子病院循環器内科教授，前院長），黒川 顕先生（S45 清智会記念病院名誉院長），浜野昭彦先生（S49 真宮病院前院長），新 博次先生（S49 AOI 八王子病院院長），白井康正先生（S37 AOI 八王子病院名誉院長），國松淳和先生（H15 南多摩病院総合内科・膠原病内科部長），樋口勝美先生（S54 永生病院内科）が現役でご活躍中です。

更に，右田 裕先生（S27 右田病院元理事長），栗田 明先生（S38 三愛病院元院長），池田幸穂先生（S52 東京医



図 1 南多摩病院外観

連絡先：益子 邦洋 〒193-0832 東京都八王子市散田町 3 丁目 10 番 1 号 南多摩病院

URL：https://www.eisei.or.jp/minamitama/

E-mail：k-mashiko@minamitama.jp

Journal Website（https://www.nms.ac.jp/sh/jmanms/）

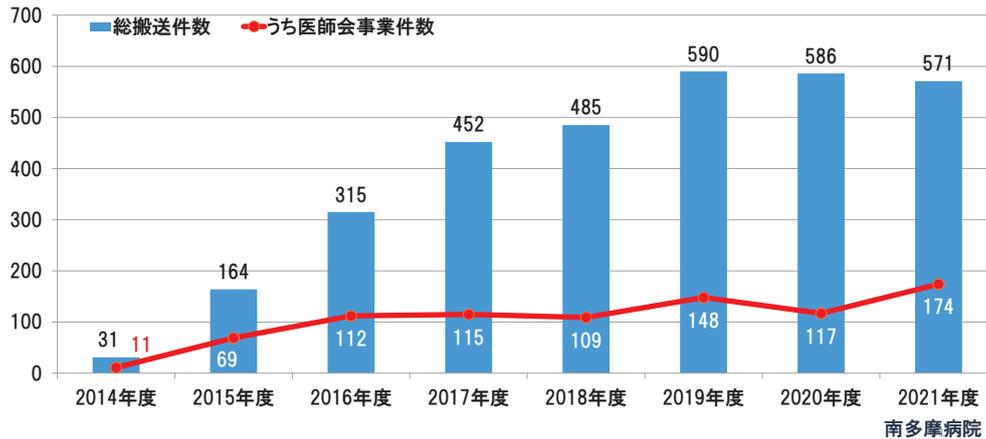


図2 病院救急車出動件数の推移
2014年12月1日～2022年3月31日(7年4カ月) n=3,194

大八王子病院前院長), 金子健蔵先生 (S53 金子内科クリニック院長), 朽方規喜先生 (H7 日本医科大学大学院 南多摩病院前血管外科部長)をはじめ, 多くの同窓生が八王子の高度医療や地域医療に貢献してこられました。

当院の新型コロナウイルス感染症(コロナ)対応では, 永生会の安藤高夫理事長が2020年1月30日に武漢市からの緊急帰国者に対する医療支援の陣頭指揮を執られたのを皮切りに, 大型クルーズ船へ医師派遣を行い, 船内コロナ陽性者を受け入れ, 発熱外来を設置するとともに, コロナ病棟を開設してコロナと対峙してきました。

その後, LAMP法による核酸増幅検査ならびに抗原定量検査の院内検査体制確立, 都宿泊療養施設(コロナホテル)の委託運営, 八王子市ワクチン集団接種会場への職員派遣, 八王子市消防署職員のワクチン接種, 八王子市コロナ支援拠点への災害コーディネーター医師・救急救命士派遣などを実施しました。コロナ診療開始から令和4年3月31日までの診療実績は, 発熱外来受診者数6,209名, 延べ検査件数16,033件(PCR法1,784件, LAMP法8,311件, 抗原定量4,805件, 抗原定性1,133件)コロナ入院患者数598名, 7月13日までのホテル宿泊療養者数は3,852名となっており, 約2年半の間, 職員が一丸となってコロナと闘い続けた成果を論文として報告しました¹⁻³。

また当院では, コロナ禍の厳しい環境下にあっても, “諦めない急性期医療”, “断らない二次救急医療”, “逃げないコロナ診療”を三本柱に据え, 救急患者受入体制を強化し, 地域急性期医療を提供し続けてきました。

当院の2021年度救急車搬入患者数は4,561名, 冠動脈インターベンション件数は202件, 手術件数は1,782件(整形外科627件, 外科390件, 眼科301件, 泌尿器科255件, 婦人科163件, 透析科46件), 麻酔は全麻966件, 脊麻186件, 静麻81件, 局麻等549件となっています。手術件数は年々増加しており, 当院では現在, 外科と麻酔科の常勤医師を募集中です。

当院の特徴として, 八王子市高齢者救急医療体制広域連絡会(八高連)のメンバーとして, 病院救急車を活用した在宅療養中または施設入所中の高齢者救急搬送の取り組みを医師会事業として開始し, 2014年12月から2022年3月31日までに3,194件(内, 在宅療養患者搬送855件, 27%)の搬送を実施しました(図2)。病院救急車は慢性期病院等の高齢救急患者受け入れを大幅に増加させるとともに, 救急病院と慢性期病院・精神科病院の連携を促進して高齢患者を住み慣れた地域で支え, 消防救急の負担を軽減することを証明しました。現在, 看護師・救急救命士を増員して病院救急車を24時間365日体制で運用しており, 事業の成果を論文として報告しました⁴⁻⁷。

また, 地域包括ケアシステムを構築するために地域密着型病院が提供する在宅療養支援の重要性が指摘されていますので, 訪問診療部を開設して地域内の医療・介護システムと緊密に連携し, 住民が安心して“ときどき入院, ほぼ在宅”を達成できるよう取り組んでいます。

以上, 当院の近況につき報告させていただくとともに, 八王子市で過去に活躍された, あるいは現在ご活躍中の同窓医師についても紹介させていただきました。

南多摩病院は地域急性期病院として, 地域住民の命と健康を守るため, 日々, 闘い続けています。

日本医科大学に在籍し, キャリアチェンジを検討しておられる先生には, 是非とも当院での勤務をご検討頂ければ幸いです。

参考文献

1. 益子邦洋：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）におけるPCR陽性率評価の意義. 救急医学 2020; 44: 741-749.
2. 益子邦洋, 森 宏, 木下 力ほか：民間二次救急病院における新型コロナウイルスとの闘い. 病院経営 Master 2020; 7: 38-45.
3. 益子邦洋, 吉岡正剛, 関 裕ほか：新型コロナに対峙する医療介護福祉事業・施設における急性期病院の役割. 日本慢性期医療協会誌 2021; 29: 30-37.
4. 益子邦洋, 関 裕, 安藤高朗ほか：大都市圏の救急医療体制の構築—八王子市医師会の取り組み—. 病院 2016; 75: 759-765.
5. 益子邦洋, 関 裕, 安藤高夫ほか：病院救急車の運用は消防救急車による病院間搬送件数の削減を加速する. 日医師会誌 2020; 148: 2451-2456.
6. 益子邦洋, 関 裕, 加藤 宏ほか：八王子市における高齢者救急医療への取り組み—八高連と病院救急車—. 老年内科 2020; 1: 697-704.
7. 益子邦洋：病院救急車により慢性期病院の救急受入が増加し, 急慢連携が加速する. 全日本病院協会雑誌 2020; 31: 3-8.

(受付：2022年5月23日)